

排便用処理剤「バイオコート250」

1. お徳用 排便処理剤「バイオコート250」

250g入り 約17回分以上

ラミジップ スタンドタイプ AL-16 230×160×0.114(厚さ)mm



2. 成分・性状

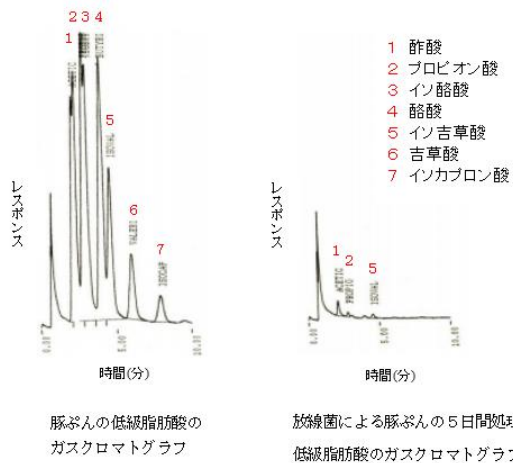
成分	微生物製剤 : バイオコート
微生物	放線菌、真菌、硝化菌、脱窒菌、光合成菌
性状	粉体 (もみ殻に吸着)
溶解度	1%以下

3. 従来の処理剤の問題

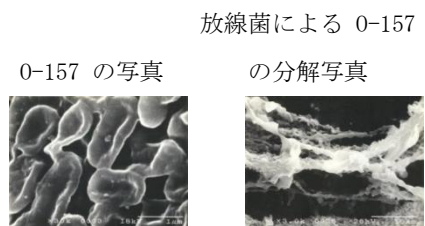
- ① 各メーカーの排泄物処理剤は1種類で、凝固剤が主です。消臭効果としては活性炭やヤシ殻等を使用していますが抜本的な消臭、分解は出来ません。
- ② 排便に凝集剤を使用すると、特に高分子ポリマーは2～3週間で凝集効果が低下して溶けてしまうために悪臭が発生します。これは排便の有機物によるポリマーの分解が始まるためです。
- ③ 処理物の回収には最低1ヶ月はかかり、最終焼却には半年から1年の期間が必要となります。このため長期間、悪臭が発生しないことが求められます。
- ④ 排便の消臭は硫化水素、低級脂肪酸が主体で、これらを分解するためにはそれぞれの有機化合物を分解する微生物が必要です。

4. 特徴

- ① 悪臭成分である低級脂肪酸（酢酸、プロピオン酸、酪酸、吉草酸、カプロン酸等）と硫化水素を放線菌、光合成細菌によって臭いの成分ならびに悪臭の元である有機物を分解することにより悪臭が無くなります。
- ② もみ殻は水分を吸収するだけでなく、植物繊維の中でも硬い方でその表面はガラス質であるため微生物の吸着がし易くなります。この性質を活かせることで微生物を安定させます。
- ③ 排便中の病原菌が繁殖すると感染の問題もありますが、この微生物は特殊な放線菌を使用しているため大腸菌はもちろん、O-157、病原菌に対しても死滅効果があります。
- ④ ポリ袋に処理した処理物は1年間を過ぎても悪臭が発生しません。（炎天下でも問題ないです。）
- ⑤ 既に購入済みのポリ袋をご使用ください。凝固剤は不用です。不足の時に凝固剤をご使用頂けます。



放線菌による豚ふんの低級脂肪酸のガスクロマトグラフ比較



5. PL 保険

加入しています

6. JAN コード

4 5 7 1 3 4 2 1 8 0 7 2 0

7. 安全性

マウスによる経口急性毒性 $LD_{50} > 2000 \text{ mg} / \text{kg}$
食塩程度の安全性: 日本食品分析センター

8. 保管及び取扱い上の注意

① 保管方法

直射日光と高温を避け、湿気のない場所に保管する。

② 火災・爆発に対する措置

特に必要なし

③ 廃棄上の注意

現行の法令に基づいた方法で行うこと。

(現在、一般廃棄物の焼却で問題ありません)

9. 品質保証期間

商品発送後、7年間 (メーカー保障5年間)